

RSウイルス母子免疫ワクチンの定期接種化について

令和8年4月から、乳幼児が感染すると重症化しやすいRSウイルス感染症を予防するため、妊婦に対して母子免疫ワクチンの定期接種を開始します。

【RSウイルス感染症とは】

- ・RSウイルスの感染による急性の呼吸器感染症で、生後1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%の乳幼児が少なくとも一度は感染するとされています。
- ・初回感染時には、より重症化しやすいといわれており、特に生後6ヶ月以内に感染した場合には、細気管支炎や肺炎などで入院を要することがあります。

1. 目的

妊婦への接種によって、出生後の乳児のRSウイルス感染症の重症化を予防すること。

2. 開始時期

令和8年4月1日

3. 定期接種化の概要

RSウイルス感染症が予防接種法上のA類疾病に位置付けられたため、個人負担なしで接種を実施します。

接種対象者	妊娠28週0日から36週6日までの者
ワクチンの種類	組換えRSウイルスワクチン（アブリスボ筋注：ファイザー社）
接種方法	妊娠毎に、1回0.5mlを筋肉内に注射する。

4. 対象者数

1,040人（出生数1,300人×80%）

【参考：年度別出生数】

令和4年度 1,350人、令和5年度 1,239人、令和6年度 1,242人